Vypyr® VIP Series

オペレーション
マニュアル

ippinkan-music.com

日本語

エレクトリック • アコースティック • ベース

VYPYR® VIPシリーズは業界初のエレキギター/エレキベース/アコースティックギター、全てに対応したVariable Instrument Performanceアンプです。

Peavey Electronicsは、世界で初めて、エレキギター/ベースギター/アコースティックギターの全てに対応したモデリングアンプを発明し、アンプ業界に再び革命を起こしました。
Vypyrシリーズでは、1台のアンプがエレキギター/ベースギター/アコースティックギター3種のアンプを担うだけでなく、エレキギタープレイヤーは、シタールや12弦ギターなど、楽器のタイプも選択することができます(VIP3のみ)。

また、本製品は、パワフルな32bit SHARCプロセッサーとPEAVEYの特許技術TransTubを組み合わせ回路を搭載し、最高音質のモデリングアンプサウンドを実現しました。

VYPYRシリーズでは、アンプ/エフェクター/各種パラメーターの設定をアンプ本体で行うことができ、パソコンなどに都度接続する必要はありません。
WYSIWYG LEDインジケーターコントロールでは、各種パラメーターの設定をすぐに視認することができ、直感的な操作が可能です。USBケーブルで本製品をコンピューターと接続。
VYPYR専用ソフトにて、プリセットの保存や編集が簡単に行えます。
過去にリリースされたVYPYRシリーズを、よりブラッシュアップさせ完成したVYPYR VIPシリーズは新たなエフェクトやモデリングアンプを搭載し、究極のモデリングアンプひとつと言えるでしょう。

VIP 1

- 20ワット
- 1 x 8インチスピーカー
- セミクローズドバックキャビネット
- TransTube®テクノロジー
- アコースティックギター・シミュレーション
- ベース・シミュレーション
- 16プリセット
- 全22エフェクト
- 全36アンプモデリング
(12アンプ x 3チャンネル)
- 6ベースアンプモデリング
(2アンプ x 3チャンネル)
- 6アコースティックアンプモデリング
(2アンプ x 3チャンネル)
- Sanpera™ I or IIフットコントローラー使用可能
- WYSIWYG LEDインジケーター・コントロール
- グローバルリバーブ、ディレイ
- タップテンポ
- 双方向USB(データ-MIDI-オーディオ録音出力
- Aux/MP3/CDインプット
- ヘッドフォンアウト
- 最大4エフェクト同時使用可能
(Sanpera™ I or II フットコントローラー使用時)
- クロマチックチューナー
- 重量：8.0kg
- サイズ(WxDxH)：421mm x 216mm x 381mm

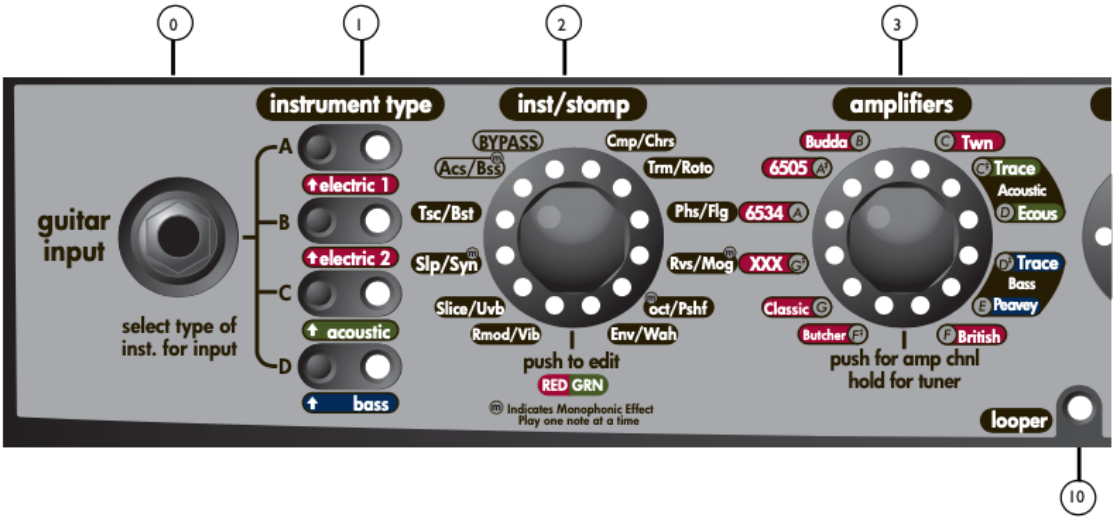
VIP 2

- 40ワット
- 1 x 12インチスピーカー
- セミクローズドバックキャビネット
- TransTube®テクノロジー
- 10インストゥルメントモデル
- 16プリセット
- 12ストンプボックスモデリング
- 全36アンプモデリング
(12アンプ x 3チャンネル)
- 6ベースアンプモデリング
(2アンプ x 3チャンネル)
- 6アコースティックアンプモデリング
(2アンプ x 3チャンネル)
- Sanpera™ I or IIフットコントローラー使用可能
- WYSIWYG LEDインジケーター・コントロール
- グローバルリバーブ、ディレイ
- 全26エフェクト
- タップテンポ
- 双方向USB(データ-MIDI-オーディオ録音出力
- ヘッドフォンアウト
- Aux/MP3/CDインプット
- 最大5エフェクト同時使用可能
(Sanpera™ I or II フットコントローラー使用時)
- クロマチックチューナー
- 重量：11.8kg
- サイズ(WxDxH)：498mm x 254mm x 450mm

VIP 3

- 100ワット
- 1 x 12インチスピーカー
- セミクローズドバックキャビネット
- TransTube®テクノロジー
- PowerSponge® 100ワット〜1ワット
- プリセット400以上
- LCDディスプレイ上でプリセット、モデル、エフェクトを選択可能
- 10インストゥルメントモデル
- 全26エフェクト
- 12ストンプボックスモデル
- 全36アンプモデル
(12アンプ x 3チャンネル)
- 6ベースアンプモデル
(2アンプ x 3チャンネル)
- 6アコースティックアンプモデル
(2アンプ x 3チャンネル)
- WYSIWYG LEDインジケーター・コントロール
- Sanpera™ I or IIフットコントローラー使用可能
- グローバルリバーブ、ディレイ
- タップテンポ
- 双方向USB
(データ-MIDI-オーディオ録音出力)
- ヘッドフォンアウト
- Aux/MP3/CDインプット
- 最大5エフェクト同時使用可能
(Sanpera™ I or II フットコントローラー使用時)
- クロマチックチューナー
- 重量：14.1kg
- サイズ(WxDxH)：497mm x 254mm x 483mm

VIP 1フロントパネル



0 VARIABLE INSTRUMENT INPUT

VIP1ではエレクトリックギター/アコースティックギター/エレキベースを使用することができ、
それぞれの楽器に合わせたアンプを選択することができます。
このジャックに楽器本体からのケーブルを接続し、右のセレクター(1)から使用する楽器のタイプを選択します。

注：VIPアンプはパッシブタイプの楽器用として設計されています。
アクティブタイプの楽器を使用する場合、クリッピングを防ぐために、
入力ボリュームを下げていただく場合があります。

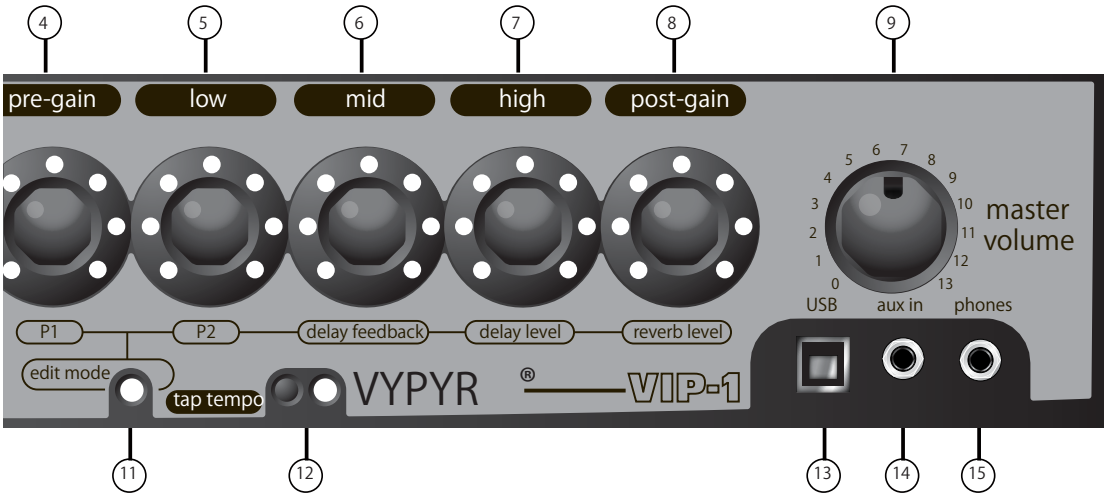
1 インストルメントタイプ/プリセット

このセクションでは、どのタイプの楽器を使用するか選択します。各バンク（elctric×2/acoustic×1/bass×1 計4バンク）には4つのプリセットが保存することができます。(4バンク×4プリセット 合計16プリセット)
各プリセットバンクは、選択した楽器のタイプ及び、使用している楽器と連動します。同一のバンクで異なるプリセットを使用する場合は、黒いボタンを押してください。LEDが変わり、選択しているプリセットのカラーを表示します。
何かパラメーターの設定を変更した場合、変更前に戻すことができます。
※ただし、マスターボリュームを変更した場合、戻すことはできません。
変更した設定を保存するには、まず同じバンクボタンが点滅するまで黒いボタンを押し続けてください。その後LEDの点滅が終わるまで再度黒いボタンを押し続けてください。Tap Tempoボタンを押すと、セーブした内容はキャンセルされます。
変更した設定を異なるバンクに保存するには、まずLEDが点滅するまで、黒いボタンを押し続けてください。点滅開始後、保存するバンクを黒いボタンを押して選択してください。その後、該当するバンクのLEDの点滅は続きますが、その他セクションのLEDは点滅しなくなります。もしバンクのLEDが、保存したいバンクのカラーではない場合、保存したいカラーが点灯するまで、黒いボタンを再度押してください。保存を完了するために、LEDの点灯が収まるまで、黒いボタンを押し続けてください。また、Tap Tempoボタンを押すと、セーブした内容はキャンセルされます。

注：VIP1とVIP2においては、BassとAcousticプリセット(バンクC&D)使用時に、使用できるアンプは各楽器に該当するアンプのみに制限されます(例: Bass選択時はTraceとPeaveyのみ。Acoustic使用時はTraceとEcousのみ)。
ただし、電源をオンにする際、BとDのボタンを押し続けた場合、全ての楽器において、全てのアンプを使用することができます

2 インストルメント/ストンプボックス エンコーダー

このノブを回すことにより、アンプ前に接続するストンプボックスを選択することができます。
さらに、このセクションでは、アコースティックシミュレーションとベースシミュレーションを選択することもできます。
このボタンを押すとエディットモードに切り替わります(11)。
いくつかのストンプボックスとベースシミュレーションには、小さな'm'の文字が書いてありあますが、これはモノラル効果のエフェクターを意味します。また、このノブの周りに配置されているLEDは2色に点灯し、赤く点灯しているときは各表示の左のエフェクター、緑に点灯しているときは右のエフェクターが選択されています。



③ アンプエンコーダー

このノブを回してアンプを選択します。それぞれのアンプに3つのチャネルがあります。
赤色のLEDはハイゲインチャネル、黄色はクランチチャンネル、緑はローゲイン(クリーン)チャンネルを意味します。
(1)でアコースティックプリセット(バンクC)を選択している時は(バンクC)、アコースティックアンプのみを使用することができます。また、ベースプリセット(バンクD)を使用している時は、ベースアンプのみとなります。

チューナーモード: このノブを2秒押し続けるとチューナーモードに切り替わります。
アンプエンコーダー周りのLEDは、今チューニングしている音を示します。そして②ストンプボックスエンコーダー周りのLEDは、チューニングしている音がシャープしているのかフラットしているのかを示します。
LEDが12時の位置よりも右にある場合は音がシャープしているので、チューニングを下げる必要があります。
逆にLEDが12時の位置よりも左にある場合はフラットしているのでチューニングを上げてください。
エフェクトエンコーダー周りのLEDがすべて点灯しているときはチューニングが合っていることを意味します。

④ プリゲイン

このノブを回して、どの程度音を歪ませるかを調整します。エディットモードでは、このノブで、選択したストンンプボックスまたはエフェクターのパラメーター1を調整することができます。
※各ストンプボックスとエフェクターのパラメーターに関しては、本説明書の16ページ目以降をご確認ください。

⑤ ローエンコーダー

このノブを回して、低音域を調整します。エディットモードでは、このノブで、選択したストンプボックスまたはエフェクターのパラメーター2を調節することができます。
※各ストンプボックスとエフェクターのパラメーターに関しては、本説明書の16ページ目以降をご確認ください。

⑥ ミッドエンコーダー

このノブを回して、中音域を調整します。エディットモードでは、このノブで、ディレイエフェクトのフィードバックを調節することができます。フィードバックとはディレイエフェクトの繰り返す回数を意味します。

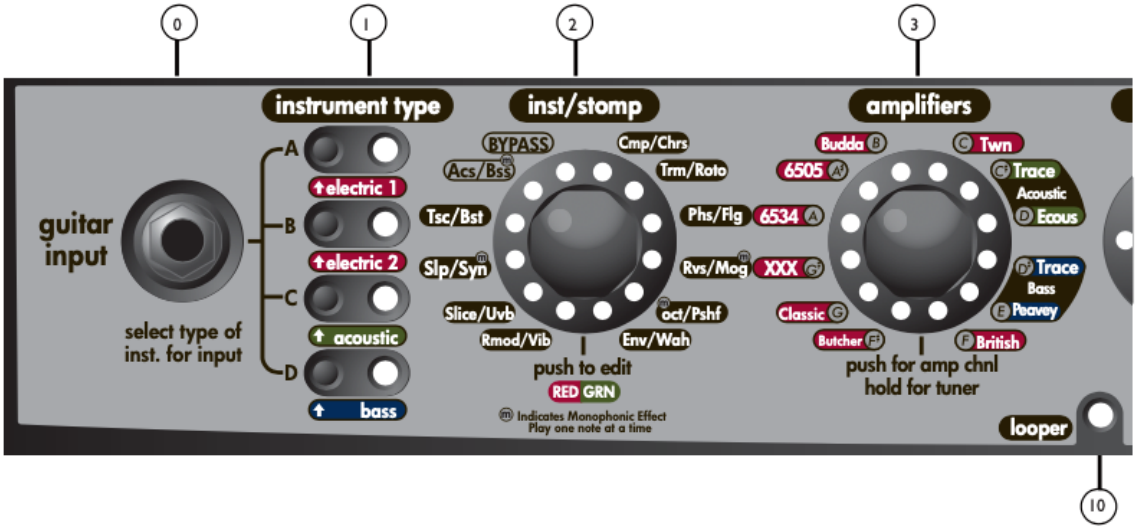
⑦ ハイエンコーダー

このノブを回して、高音域を調整します。エディットモードでは、このノブで、ディレイエフェクトのレベルを調節することができます。左に回し切るとゼロ、右に回し切ると最大となります。

⑧ ポストゲイン

このノブを回して、各プリセットごとのボリュームを調整します。エディットモードでは、このノブで、リバーブの量を調節することができます。

VIP 1フロントパネル



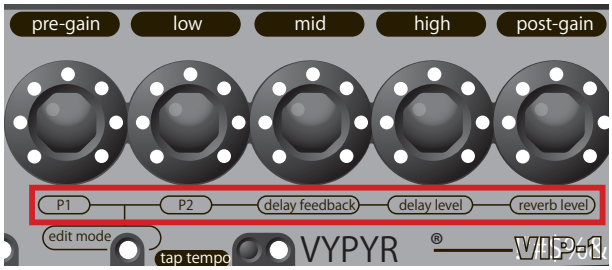
9 マスターボリューム

目盛りは1～13まであります。

注:AcousticまたはBassのアンプモデルでは、プリゲインが低めに設定されているため、使用する場合によっては、エレクトリックギターを使用するときよりもマスターボリュームを高めに設定する必要があります。もしもAcoustic及び、Bassのセレクトしたアンプの音が小さいと感じた時は、ポストゲイン、マスターボリュームのレベルを調整してください。

10 LOOPERインディケーター

※この機能を使用するには、Sanpera®I、またはSanperaIIのフットコントローラー(別売)が必要です。
Sanpera®I、又はSanperaIIを使用すると、30秒以上の録音ができ、音を重ねて録音することができます。
また、録音またはループを再生しているとき、looperに対応するエンコーダーのLEDが点灯します。

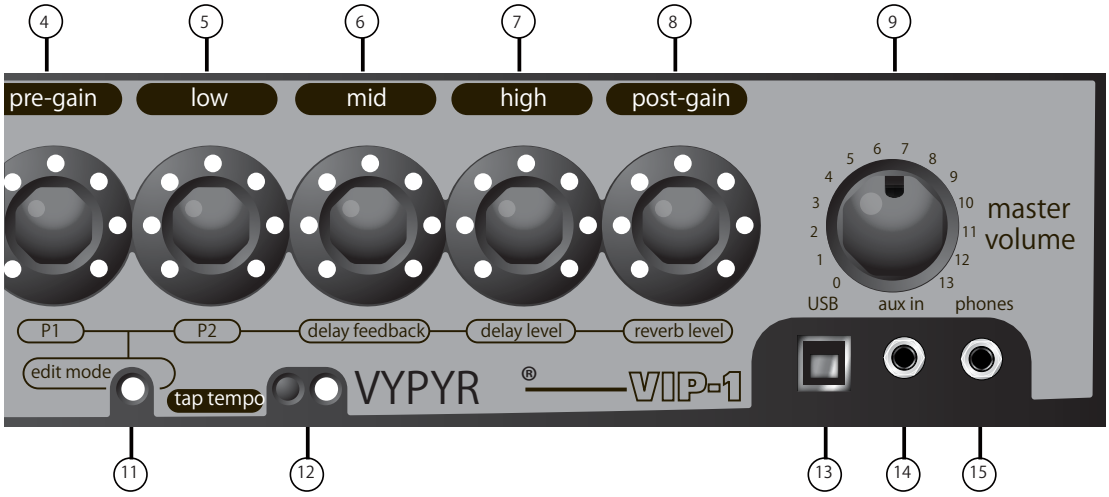


11 インスト/ストンプボックス エディットモード

このボタンを押すと、エディットモードに切り替わります。
エディットモードでは、アンプをコントロールする5つのノブが、各ノブ下に記載されている機能(上記図 赤枠内参照)に切り替わります。
VIP1のエディットモードでのLEDは、選択されたエフェクターが、アンプの前(赤色)か、後(緑色)かを示します。
エディットモードにするには、(2)のストンプボックスエンコーダーを押します。エディットモードを終了するには、(2)のエンコーダーをもう一度押します。
注:ディレイやリバーブの設定を変更するには、エディットモードに切り替える必要があります。

12 タップテンポ

このボタンを押して、ディレイエフェクトのテンポをセットします。ディレイ音が聞こえない場合、11のエディットモードに切り替えて、エフェクトレベルを高めに設定してください。



13 USB レコーディングアウト

VYPYR VIPシリーズは、USB2.0ケーブルでコンピューターと接続した場合、アンプがオーディオデバイスとして検出され(ドライバー不要)、マイク＆キャビネットシミュレートした高音質なサウンドを、簡単にDAW上でのレコーディングに使用することができます。

注: USB出力を使用している間は、スピーカーからの音はミュートされますが、ヘッドフォン出力は有効です。そのため、リアルタイムのモニタリングができます。USBポートは、最新版ファームウェアのダウンロードや、コンピュータに接続して Vypyr Edit Graphic User Interface を利用するためにも使用できます。MIDIはUSBケーブル接続時でも有効です。

14 AUX インプット

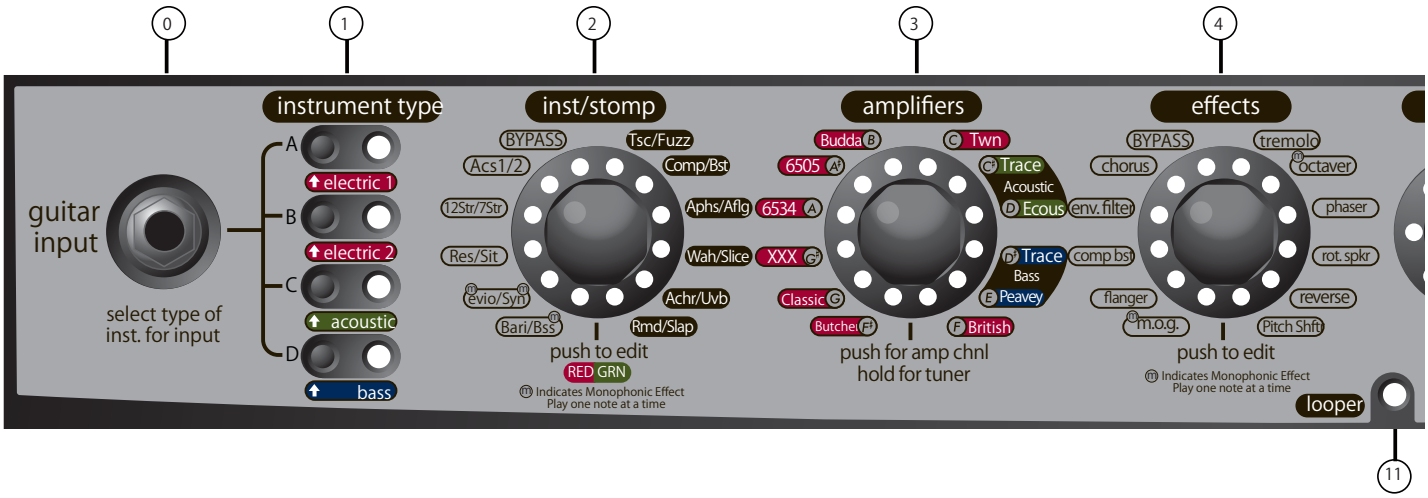
mp3プレーヤー、ドラムマシン、CDプレーヤーなどの外部機器と接続し、音源を流しながら演奏することができます。

15 ヘッドフォン/レコーディングアウトプット

多大な時間が費やされて開発された高音質ヘッドフォンアウトは、別売りの対応アダプタ(別売)を接続して、このアウトプットをレコーディングにも使用することができます。

注:ヘッドフォンアウトを使用してる間は、スピーカーからの音はミュートされ、ヘッドフォンアウトの音量は(9)のマスターボリュームで調節することができます。

VIP 2 フロントパネル



0 VARIABLE INSTRUMENT INPUT

VIP2ではエレクトリックギター/アコースティックギター/エレキベースを使用することができ、それぞれの楽器に合わせたアンプを選択することができます。このジャックに楽器本体からのケーブルを接続し、右のセレクター(1)から使用する楽器のタイプを選択します。

注：VIPアンプはパッシブタイプの楽器用として設計されています。アクティブタイプの楽器を使用する場合、クリッピングを防ぐために、入力ボリュームを下げていただく場合があります。

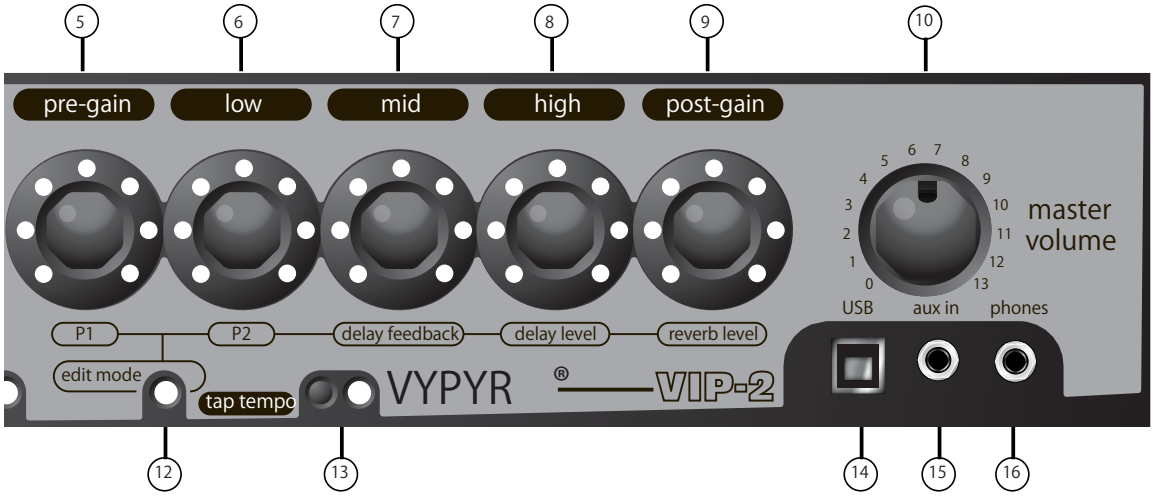
1 インストルメントタイプ/プリセット

Vypyr® VIPシリーズでは、1台のアンプでエレクトリックギター/アコースティックギター/エレキベースを使用することができます。このセクションでは、どのタイプの楽器を使用するか選択します。
各バンク（elctric×2/acoustic×1/bass×1 計4バンク）には4つのプリセットが保存することができます。
(4バンク×4プリセット 合計16プリセット)

各プリセットバンクは、選択した楽器のタイプ及び、使用している楽器と連動します。同一のバンクで異なるプリセットを使用する場合は、黒いボタンを押してください。LEDが変わり、選択しているプリセットのカラーを表示します。
何かパラメーターの設定を変更した場合、変更前に戻すことができます。

2 インストルメント/ストンプボックス エンコーダー

エレクトリックギターを使用する際、このノブの左半分のセクションから、アコースティックギター、バリトンギター、さらにシンセギターまで、10種類の楽器のモデリングを選択することができます。また、エンコーダーの右半分はストンプボックスを選択するセクションになります。
いくつかのエフェクターとベースシミュレーションには、小さな'm'の文字が書いてありますが、これはモノラル効果のエフェクターを意味します。このノブの周りに配置されているLEDは2色に点灯し、赤く点灯しているときは各表示の左のストンプボックス、緑に点灯しているときは右のストンプボックスが選択されています。
なお、このノブを押すとエディットモードに切り替わります(12)。



③ アンプエンコーダー

このノブを回してアンプを選択します。それぞれのアンプに3つのチャネルがあります。
赤色のLEDはハイゲインチャネル、黄色はクランチチャンネル、緑はローゲイン(クリーン)チャンネルを意味します。
(1)でアコースティックプリセット(バンクC)を選択している時は(バンクC)、アコースティックアンプのみを使用することができます。また、ベースプリセット(バンクD)を使用している時は、ベースアンプのみとなります。

チューナーモード: このノブを2秒押し続けるとチューナーモードに切り替わります。
アンプエンコーダー周りのLEDは、今チューニングしている音を示します。そして②ストンプボックスエンコーダー周りのLEDは、チューニングしている音がシャープしているのかフラットしているのかを示します。
LEDが12時の位置よりも右にある場合は音がシャープしているので、チューニングを下げる必要があります。
逆にLEDが12時の位置よりも左にある場合はフラットしているのでチューニングを上げてください。
エフェクトエンコーダー周りのLEDがすべて点灯しているときはチューニングが合っていることを意味します。

④ エフェクトエンコーダー

このノブを回して、 アンプのエフェクトループに配置するエフェターを選択します。
何も選択しない場合は、【BYPASS】を選択してください。
また、このノブを押すとエディットモードに切り替わります。

⑤ プリゲイン

このノブを回して、どの程度音を歪ませるかを調整します。エディットモードでは、このノブで、選択したストンンプボックスまたはエフェクターのパラメーター1を調整することができます。
※各ストンプボックスとエフェクターのパラメーターに関しては、本説明書の16ページ目以降をご確認ください。

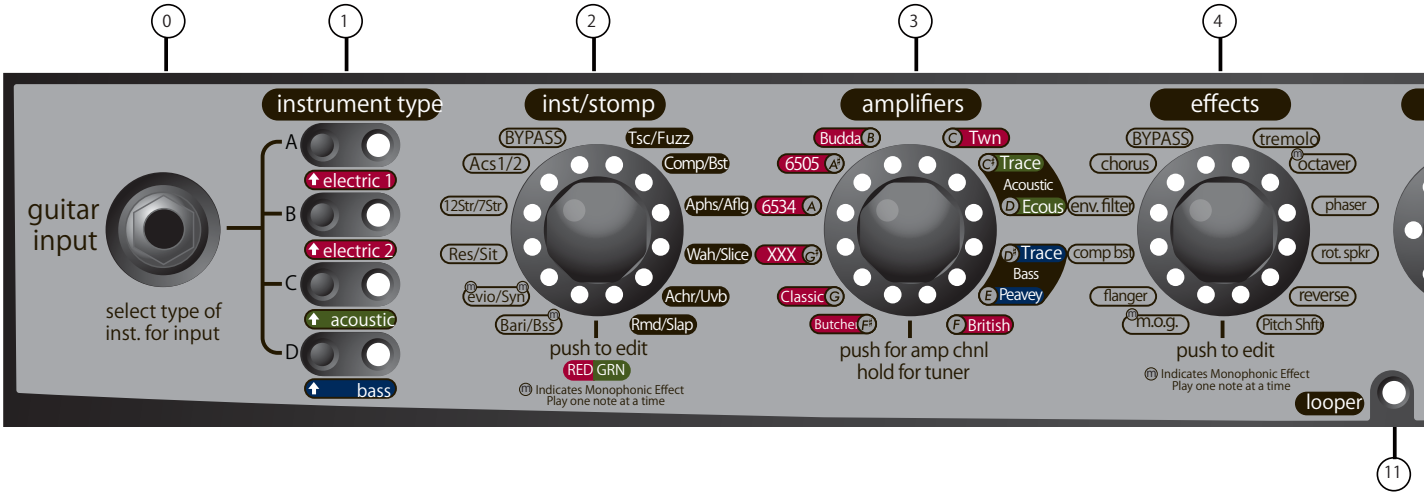
⑥ ローエンコーダー

このノブを回して、低音域を調整します。エディットモードでは、このノブで、選択したストンプボックスまたはエフェクターのパラメーター2を調節することができます。
※各ストンプボックスとエフェクターのパラメーターに関しては、本説明書の16ページ目以降をご確認ください。

⑦ ミッドエンコーダー

このノブを回して、中音域を調整します。エディットモードでは、このノブで、ディレイエフェクトのフィードバックを調節することができます。フィードバックとはディレイエフェクトの繰り返す回数を意味します。

VIP 2 フロントパネル



⑧ ハイエンコーダー

このノブを回して、高音域を調整します。エディットモードでは、このノブで、ディレイエフェクトのレベルを調節することができます。左に回し切るとゼロ、右に回し切ると最大となります。

⑨ ポストゲイン

このノブを回して、各プリセットごとのボリュームを調整します。エディットモードでは、このノブで、リバーブの量を調節することができます。

⑩ マスターボリューム

目盛りは1〜13まであります。

⑪ LOOPERインディケーター

※この機能を使用するには、Sanpera®I、またはSanperaIIのフットコントローラー(別売)が必要です。
Sanpera®I、又はSanperaIIを使用すると、30秒以上の録音ができ、音を重ねて録音することができます。
また、録音またはループを再生しているとき、looperに対応するエンコーダーのLEDが点灯します。

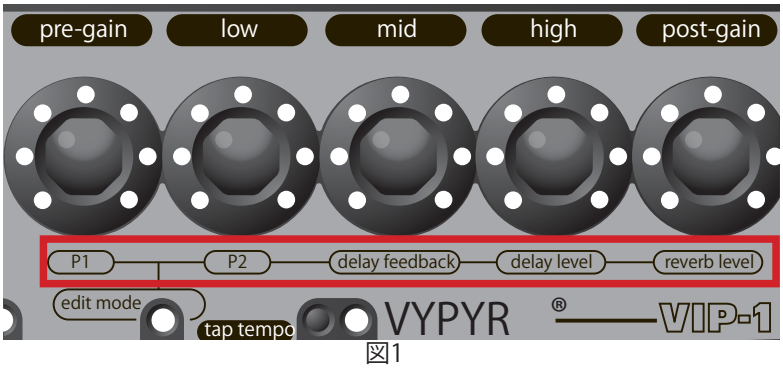
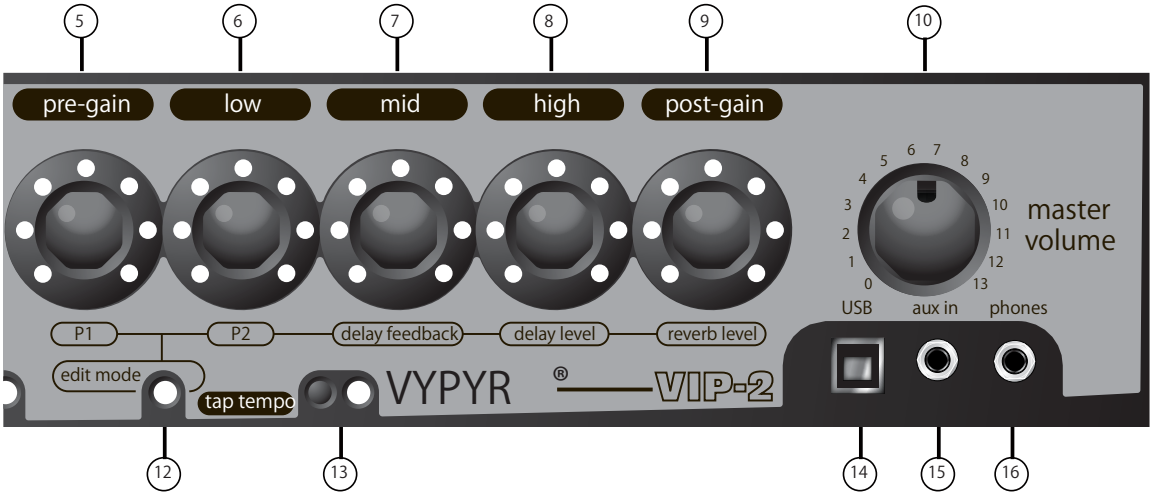


図1



12 エディットモード

このボタンを押すと、EDITモードに切り替わります。
エディットモードでは、アンプをコントロールする5つのノブが、各ノブ下に記載されている機能(次項図 赤枠内参照)に切り替わります。 VIP2のEDITモードでではLEDが緑色のときは、エフェクトのEDIT、赤色の時はストンプボックスのEDITをそれぞれ意味します。

なお、ストンプボックスエンコーダー(2)、またはエフェクトエンコーダー(4)を押して、エディットモードに切り替えることもできます。エディットモードを終了する時は、同じエンコーダーをもう一度押します。

注:ディレイやリバーブの設定を変更するには、エディットモードに切り替える必要があります。

13 タップテンポ

このボタンを押して、ディレイエフェクトのテンポをセットします。
ディレイ音が聞こえない場合、11のエディットモードに切り替えて、エフェクトレベルを高めに設定してください。

14 USB レコーディングアウト

VYPYR VIPシリーズは、USB2.0ケーブルでコンピューターと接続した場合、アンプがオーディオデバイスとして検出され(ドライバー不要)、マイク＆キャビネットシミュレートした高音質なサウンドを、簡単にDAW上でのレコーディングに使用することができます。

**注: USB出力を使用している間は、スピーカーからの音はミュートされますが、ヘッドフォン出力は有効です。
そのため、リアルタイムのモニタリングができます。USBポートは、最新版ファームウェアのダウンロードや、
コンピュータに接続して Vypyr Edit Graphic User Interface を利用するためにも使用できます。
MIDIはUSBケーブル接続時でも有効です。**

15 AUX インプット

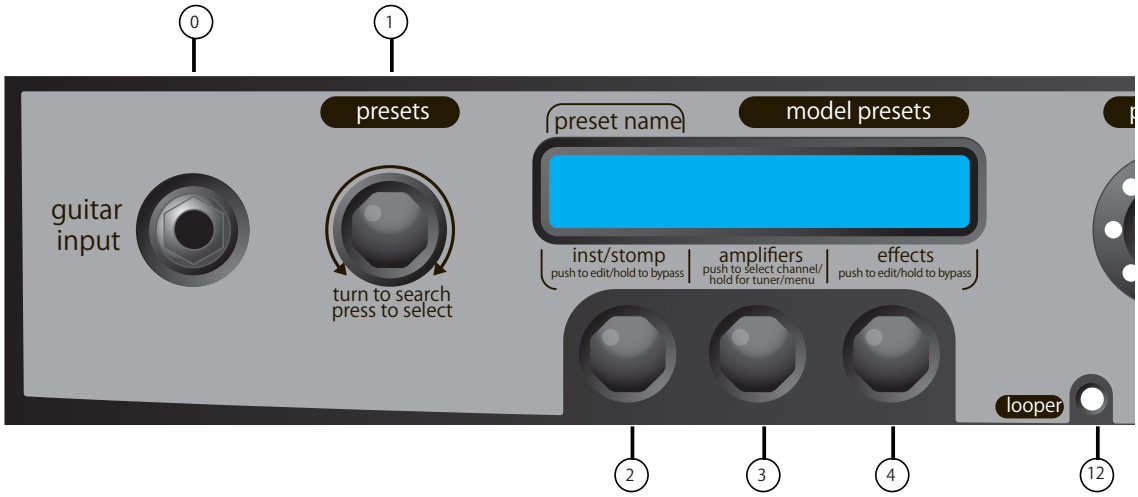
mp3プレーヤー、ドラムマシン、CDプレーヤーなどの外部機器と接続し、音源を流しながら演奏することができます。

16 ヘッドフォン/レコーディングアウトプット

多大な時間が費やされて開発された高音質ヘッドフォンアウトは、別売りの対応アダプタ(別売)を接続して、
このアウトプットをレコーディングにも使用することができます。

**注:ヘッドフォンアウトを使用してる間は、スピーカーからの音はミュートされ、ヘッドフォンアウトの音量は(10)の
マスターボリュームで調節することができます。**

VIP 3 フロントパネル



0 VARIABLE INSTRUMENT INPUT

VIP3では、エレクトリックギター/アコースティックギター/エレキベースを使用することができ、それぞれの楽器に合わせたアンプを選択することができます。
このジャックに楽器本体からのケーブルを接続し、右のセレクター(1)からプリセットを選択します。

注 : VIPアンプはパッシブタイプの楽器用として設計されています。アクティブタイプの楽器を使用する場合、クリッピングを防ぐために、入力ボリュームを下げていただく場合があります。

1 プリセットエンコーダー

VIP3では400以上のプリセットが保存されています。
エンコーダーを回して、使用するプリセットが表示し、再度エンコーダーを押せば、そのプリセットの音が立ち上がります。バンクCのプリセットはアコースティックギター、バンクDのプリセットはエレキベースでそれぞれ使用できるようになっています。

2 インストルメント/ストンプエンコーダー

このエンコーダーを回すと、楽器のモデリング、またはストンプボックス(アンプの前に配置するコンパクトエフェクター)を選択することができます。使用したいモデリング、またはストンプボックスが表示された際、エンコーダーを軽く押すとEDITモードに切り替わります(11)。また、エンコーダーを押し続けるとこのエンコーダーのオン/オフを切り替えることができます。なお、オンのときは、各モデル名が大文字で表示され、オフの時は、小文字で表示されます。

注 : このエンコーダーは他の機能にも使用できます。詳しくは【プリセット】のセクションをご覧ください。

3 アンプエンコーダー

このノブを回してアンプのモデルを選択した後、軽く押すことによって決定となります。
それぞれのアンプには3つのチャンネルがあり、アイコンがない(6505)のはクリーンチャネル、四角形(6505■)はクランチチャンネル、星印(6505*)はハイゲインチャンネルを表します。
アンプエンコーダを軽く押すとアンプのチャンネルが切り替わります。
なお、このエンコーダーを2秒間押し続けるとチューナーモードになり、5秒以上押し続けるとシステムメニューモードになります。

注:このエンコーダーは他の機能にも使用できます。詳しくは【プリセット】のセクションをご覧ください。
チューナーモード:チューナーは画面に表示され、アイコンは音がシャープかフラットかを示します。
アイコンが中央より右にある場合はシャープ(チューニングを下げる必要があります)、中央より左にある場合はフラット(チューンニングをあげる必要があります)、そしてアイコンが中央にあるときは、ギターのチューニングが合っていることをそれぞれ意味します。

4 エフェクトエンコーダー

このノブを回して、 アンプのエフェクトループに配置するエフェターを選択します。
何も選択しない場合は、【BYPASS】を選択してください。
また、このノブを押すとエディットモードに切り替わります。

注:このエンコーダは他の機能にも使用できます。詳しくは【プリセット】のセクションをご覧ください。

5 プリゲイン

このノブを回して、どの程度音を歪ませるかを調整します。エディットモードでは、このノブで、
選択したストンンプボックスまたはエフェクターのパラメーター1を調整することができます。

※各ストンプボックスとエフェクターのパラメーターに関しては、本説明書の16ページ目以降をご確認ください。

6 ローエンコーダー

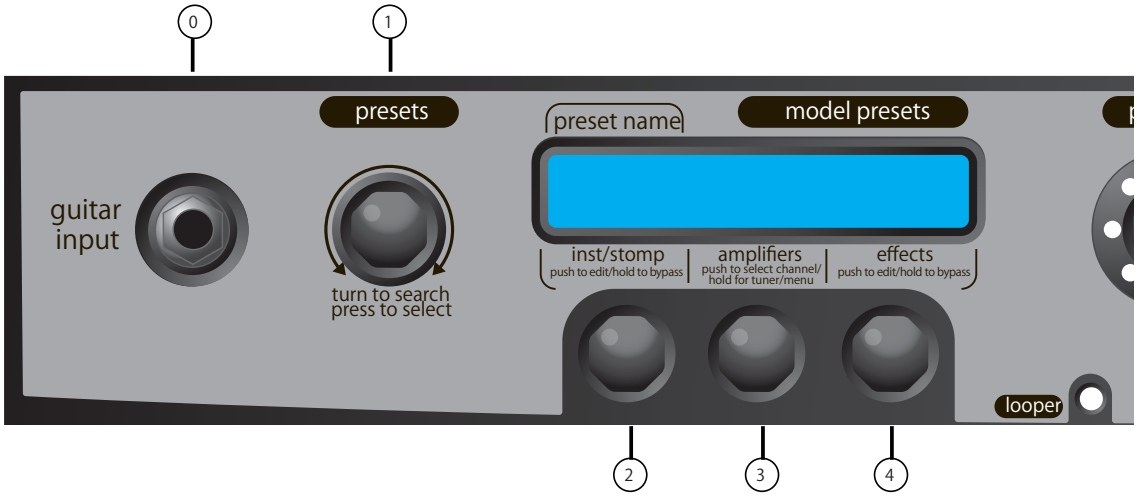
このノブを回して、低音域を調整します。エディットモードでは、このノブで、選択したストンプボックス
またはエフェクターのパラメーター2を調節することができます。

※各ストンプボックスとエフェクターのパラメーターに関しては、本説明書の16ページ目以降をご確認ください。

7 ミッドエンコーダー

このノブを回して、中音域を調整します。エディットモードでは、このノブで、ディレイエフェクトの
フィードバックを調節することができます。フィードバックとはディレイエフェクトの繰り返す回数を意味します。

VIP 3 フロントパネル



⑧ ハイエンコーダー

このノブを回して、高音域を調整します。エディットモードでは、このノブで、ディレイエフェクトのレベルを調節することができます。左に回し切るとゼロ、右に回し切ると最大となります。

⑨ ポストゲイン

このノブを回して、各プリセットごとのボリュームを調整します。エディットモードでは、このノブで、リバーブの量を調節することができます。

⑩ マスターボリューム

目盛りは1〜13まであります。

⑪ POWER SPONGE

このノブを回して、アンプにおけるパワーアンプの出力をどの程度抑えるかを調整することができます。
ノブを右に回せば回すほど、出力を抑えることになります。
このパワースポンジ機能を使えば、最大100ワットの出力を1ワットのまで抑えることができます。
つまり、アンプのボリュームをフルに上げた時のクランクアップされた迫力のあるサウンドが、
自宅練習でも使えてしまうほど小さな音量でも楽しむことができます。

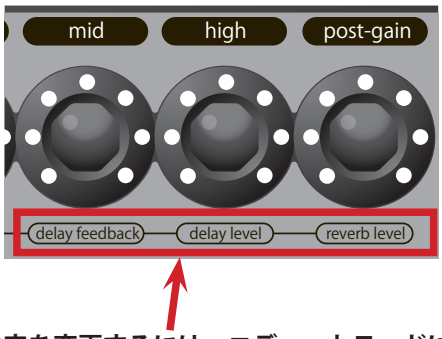
⑫ LOOPERインディケーター

※この機能を使用するには、Sanpera®I、またはSanperaIIのフットコントローラー(別売)が必要です。
Sanpera®I、又はSanperaIIを使用すると、30秒以上の録音ができ、音を重ねて録音することができます。
また、録音またはループを再生しているとき、looperに対応するエンコーダーのLEDが点灯します。

⑬ エディットモード

このボタンを押すと、エディットモードに切り替わります。
エディットモードでは、アンプをコントロールする5つのノブが、各ノブ下に記載されている機能
(次項図 赤枠内参照)に切り替わります。
VIP3のエディットモードでではLEDが緑色のときは、エフェクトのエディット、赤色の時はストンプボックスの
エディットをしていることを意味します。
なお、ストンプボックスエンコーダー(2)、またはエフェクトエンコーダー(4)を押して、エディットモードに
切り替えることもできます。エディットモードを終了する時は、同じエンコーダーをもう一度押します。

注:ディレイやリバーブの設定を変更するには、エディットモードに切り替える必要があります。



ディレイやリバーブの設定を変更するには、エディットモードに切り替える必要があります。

(14) タップテンポ

このボタンを押して、ディレイエフェクトのテンポをセットします。
ディレイ音が聞こえない場合、11のエディットモードに切り替えて、エフェクトレベルを高めに設定してください。

(15) USB レコーディングアウト

VYPYR VIPシリーズは、USB2.0ケーブルでコンピューターと接続した場合、アンプがオーディオデバイスとして検出され(ドライバー不要)、マイク＆キャビネットシミュレートした高音質なサウンドを、簡単にDAW上でのレコーディングに使用することができます。

**注: USB出力を使用している間は、スピーカーからの音はミュートされますが、ヘッドフォン出力は有効です。
そのため、リアルタイムのモニタリングができます。USBポートは、最新版ファームウェアのダウンロードや、
コンピュータに接続して Vypyr Edit Graphic User Interface を利用するためにも使用できます。
MIDIはUSBケーブル接続時でも有効です。**

(16) AUX インプット

mp3プレーヤー、ドラムマシン、CDプレーヤーなどの外部機器と接続し、音源を流しながら演奏することができます。

(17) ヘッドフォン/レコーディングアウトプット

多大な時間が費やされて開発された高音質ヘッドフォンアウトは、別売りの対応アダプタ(別売)を接続して、
このアウトプットをレコーディングにも使用することができます。

**注:ヘッドフォンアウトを使用してる間は、スピーカーからの音はミュートされ、
ヘッドフォンアウトの音量は(10)のマスターボリュームで調節することができます。**

図1

図3

図2

図4

プリセットの保存と名称変更

1. エディットしたプリセットを保存するには、まずプリセットエンコーダーを2秒押して、ロックの解除を行います。画面は図1のように表示されます。

2. このモードで、ディスプレイ下側のノブ回すと、複数のコマンドが表示されます。
例えば、ディスプレイに"Turn Stomp=NEXT BANK"と表示された場合、これは
【Turn Stomp＝ストンプボックスエンコーダーを回す】【NEXT BANK=次のバンク】を意味し、
【ストンプボックスエンコーダーを回して、エディットしたプリセットの保存先を決めてください】
ということを意味します。 (図2参照)。

3. アンプエンコーダーとエフェクトエンコーダーを使用して、プリセットの名前を変更することができます。
アンプエンコーダーを回してカーソルを動かし、エフェクトエンコーダーを回して文字を変更します。(図3＆図4参照)。

プリセットを保存するには、再度プリセットエンコーダーを押します。

注：【タップテンポ】ボタンを押すと、このエディットしたプリセットを新たに保存するモードがキャンセルされ、通常の演奏に戻ることができます。

図5

図7

図6

システムメニュー

1. システムメニューにアクセスするには、アンプエンコーダー(3)を押し続けます(図5)。
このシステムメニューでは、以下の3つの項目が表示されます。

・コントラストの調整(ディスプレイのコントラストを変更)
・デモモードの無効化("ライトショー" をオフにする)
・出荷時リセット(エディットしたプリセットをすべて消去してアンプを元の出荷時の状態に戻します。)

デモモードを無効にするには、インスト/ストンプエンコーダーを使い、ディスプレイに
DISABLE DEMO MODE(デモモード無効化)が表示されるまでスクロールし、アンプエンコーダを押して選択します。

重要: 出荷時リセットを実行した場合、取り消しはいかなる場合も行うことができなため、ご注意ください。

2. ディスプレイのコントラストを調節するには、アンプエンコーダーを押し、インスト/ストンプエンコーダー(図6)を使ってコントラストを調節します。次に、アンプアンコーダーを押して変更内容を保存することができます。
また、エフェクトエンコーダーを押すと、コントラストの調整はキャンセルされます(図7)。

ストンプボックスエンコーダ

VIP 1

VIP 2

インプットジャック右側のエンコーダーは、インストルメント/ストンプボックスエンコーダーです。
このエンコーダーでは、インストルメントのモデリング、またはディストーションやブースターなどの
ストンプボックス (ギターとアンプの間に接続するコンパクトエフェクター) を選択することが出来ます。
これらを各アンプのモデリングと組み合わせることにより、とても迫力のあるリアルなアンプサウンドを
得ることが出来ます。

なお、このインストルメント/ストンプボックスエンコーダーを回してエフェクトを選択した後、
各パラメーターを調節するには、そのままこのエンコーダーを軽く押してください。
各インストルメントのモデリング、ストンプボックス、エフェクトの詳細については、
VIP Matrix を参照にしてください。

インストルメント/ストンプボックスエンコーダーのオプション

12 STRING*: 12弦エレクトリックギターのシミュレート
パラメーター1(P1) : ボディ / パラメーター2(P2) : 弦の明るさ

7 STRING*: 各弦のピッチを下げた7弦ギターのシミュレート
パラメーター1(P1) : ボディ / パラメーター2(P2) : 弦

ACOUSTIC 1: ショートサイズアコースティックギターのシミュレート
パラメーター1(P1) : ボディ / パラメーター2(P2) : 弦

ACOUSTIC 2*: ジャンボドレッドノートサイズアコースティックギターのシミュレート
パラメーター1(P1) : ボディ / パラメーター2(P2) : 弦

BARITONE*: ローAのチューニングにした、バリトンギターのシミュレート
パラメーター1(P1) : ボディ / パラメーター2(P2) : 弦

BASS: ギターの音を1オクターブチューンダウンしたベースギターのシミュレート(モノラル)
パラメーター1(P1) : ボディ / パラメーター2(P2) : 弦

EVIO*: エレクトリックバイオリンシのシミュレート(モノラル)
パラメーター1(P1) : カラー / パラメーター2(P2) : グライド

RESONATOR*: ブルースやカントリーでよく使われるレゾネータギターのシミュレート
よりリアルな響きになるように、ピックアップの切り替えやトーンコントロールのあるギターで試してみてください。
パラメーター1(P1) : ボディ / パラメーター2(P2) : 弦

SITAR*: インド音楽に使われる伝統楽器シタールのシミュレート
パラメーター1(P1) : ボディ / パラメーター2(P2) : 弦

*** VIP1 では使用できません**
注:モノラル記載のあるモデルは、コード弾きではなく、単音で演奏することを想定して作られています。

TSC: クラシックオーバードライブのシミュレート
ミッドブーストの効果があります。
モデリングアンプの前に接続することで有効的な効果が得られます。
ます最初にアンプモデリング【TWN】の前に接続し、その効果を確認していただくと分かりやすいかもしれません。
パラメーター1(P1) : ドライブ / パラメーター2(P2) : レベル

ANALOG BOOST: アナログブースターのシミュレート
クリーンなサウンドでソロを弾くときや、ヘビーなソロ用にブースターが必要なとき、最も便利なエフェクトの1つが、
このアナログブーストです。別売りのSanpera® I、II を使用すると、足元で操作する【マニュアルモード】で、
ソロブーストとしても利用できます。詳しくは Sanperaのマニュアルをご覧ください。
パラメーター1(P1) : ドライブ / パラメーター2(P2) : レベル

ストンプボックス	VIP 1	VIP 2	VIP 3
TSC	X	X	X
ファズ		X	X
コンプ	X	X	X
スラップ	X		
ワウ	X	X	X
フェーザー	X	X	X
フランジャー	X	X	X
シンセ	X	X	X
スライス	X	X	X
Env フィルター	X		
ピッチシフター	X		
コーラス	X	X	X
オクターバ	X		
ロータリー	X		
MOG	X		
トレモロ	X		
リバース	X		
Uvb	X	X	X
リング Mod	X	X	X
ビブラート	X		
ブースト	X	X	X

楽器	VIP 1	VIP 2	VIP 3
アコースティック1	X	X	X
アコースティック2		X	X
12弦		X	X
7弦		X	X
レゾネータ		X	X
シタール		X	X
EVIO		X	X
シンセ		X	X
バリ		X	X
ベース	X	X	X

SLAP : 元音を短く繰り返すショートディレイに似たエフェクトです。
このエフェクトはカントリーミュージックでよく使われます。
パラメーター1(P1) : タイム / パラメーター2(P2) : ミックス

SYNTH : モノラルシンセエフェクトのシミュレート。
入力された音は、内蔵のエンベロープフィルターとピッチグライドコントローラーを通って出力されます。
アタックパラメータはフィルターの可変量を調整します。値を大きくするとワウのようなフィルタリングになります。
グライドパラメータは音から音へグライド（グリッサンド）する時間を調整します。
値を大きくすると音と音の間のスライディングが聞き取りやすくなります。
パラメーター1(P1) : アタック / パラメーター2(P2) : グライド

SLICER: スライサーは入力されたサウンドのオン/オフを素早く切り替えることによる効果を狙ったエフェクトです。
スライサーでリズミックなエフェクトを作ることが出来ます。
パラメーター1(P1) : スピード / パラメーター2(P2) : 幅
注:別売りの Sanperal、Sanpera®IIを使用すると、このエフェクトのスピードを変えることが出来ます。

UVB: 元々はロータリースピーカーシミュレーターとして設計されたエフェ。これは最もポピュラーなエフェクトの1つで、
ジミー・ヘンドリックスはウッドストックでの国歌の演奏で使われたことでも、広く知られています。
パラメーター1(P1) : スピード / パラメーター2(P2) : デプス

RING MODULATOR: Ring Modulator は2つの波形を組み合わせ、各波形にある周波数の和と差を出力します。
このエフェクトは少し奇妙に聞こえますが、ディストーションサウンドと組み合わせると、
とても個性的なサウンドを得ることができます。
パラメーター1(P1) : 周波数 / パラメーター2(P2) : ミックス

VIBRATO: 入力されたギターのボリュームを変えてエフェクト効果を生み出すトレモロと異なり、
ビブラートはピッチをわずかに変えることにより、エフェクト効果を作ります。
パラメーター1(P1) : スピード / パラメーター2(P2) : デプス

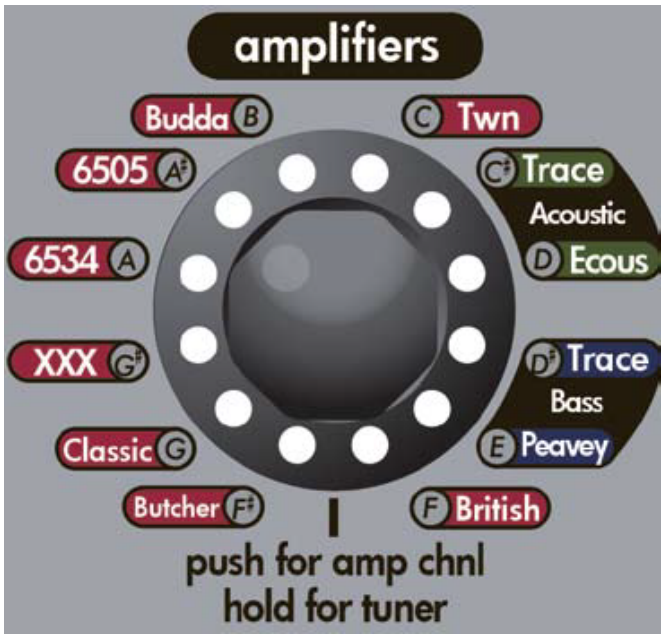
COMP: 出力レベルを均一にする効果を生み出すこのコンプレッサーでは、感度と出力レベルと調整することが出来ます。
（エディットモード）また、コンプレッサーを活用することにより、クリーントーンを弾く時は、
パーカッシブなカッティングに、リードではメローなサステインを生み出すことに有効です。
このストンプボックスエフェクトは、まずローゲインのクリーントーンのチャンネルで、
最初は弦を軽く弾き、次に強めに弾いてエフェクトの効果を確認してみてください。
パラメーター1(P1) : 感度 / パラメーター2(P2) : レベル

CHORUS: ウォームなアナログコーラスのシミュレート
パラメーター1(P1) : スピード / パラメーター2(P2) : デプス

ANALOG PHASE: Analog Phaseは周波数スペクトルの変化を利用し、
オーディオ信号に山と谷を作ることにより生まれるエフェクト効果です。
パラメーター1(P1) : スピード / パラメーター2(P2) : デプス

ANALOG FLANGE: フランジャーは一種のオーディオエフェクトで、同じ信号を少し遅らせた信号とミックス
することによって生まれる効果を狙ったエフェクトです。
パラメーター1(P1) : スピード / パラメーター2(P2) : デプス

WAH: 周波数フィルタースイープを使ったオートワウ効果のシミュレート
パラメーター1(P1) : スピード / パラメーター2(P2) : スウィープデプス



VYPYR®VIPシリーズの最も大きな特徴の1つは、アンプのチャネルエンコーダーです。
アンプモデルは それぞれ、ローゲイン(クリーンチャンネル)、ミディアムゲイン(クランチチャンネル)、
ハイゲイン(リードチャンネル)の3つのチャンネルモデルがあります。
エンコーダーを回して、各アンプモデルとチャンネルを選択し、エンコーダーを再度押すだけで、
バリエーション豊かなサウンドを瞬時に得ることが出来ます。

EQについて:
世の中には様々なタイプのアンプがあり、中にはEQのノブを回しても、サウンドに変化がほとんど感じら
れないものもあります。VYPYRシリーズでは、このアンプを手にした人に、リアルなサウンドを手軽楽しんで
もらうため、各モデリングアンプの最適なEQポイントをひとつひとつ設定し、その作業には膨大な時間が費や
されました。そして幾多にも渡るサンプル機の開発の末、このVypyrシリーズは誕生しました。

BRITISH:
「Queen」のブライアンメイをはじめ、60年代以降のイギリスの音楽を彷彿とさせるサウンドを再現。
また、ブリティッシュアンプを忠実に再現するため、このモデルにおけるトーンコントロールの幅は意図的に
狭く設定されています。

BUTCHER:
汎用性の高いブリティッシュアンプを元に設計され、クリーンなサウンドからモダンロックな
サウンドを得意とするアンプです。

CLASSIC®:
レスポンスがよく、ウォームでパンチの効いたサウンドが特徴のPeavey Classic 50はPeavey社において
長きに渡り人気のあるベストセラーアンプの1つです。クラシックシリーズのギターアンプは、多くの
ブルースプレーヤー、カントリープレーヤー、またストーンズタイプのロックギタリストからも厚い支持を得ています。

XXX:
PeaveyXXXはとても幅広いジャンルをカバーすることが出来るアンプです。ウルトラクリーンな
クリーンチャンネル、ブリティッシュサウンドライクなリズムチャンネル、深く歪ませてもサウンドの輪郭と
とてもクリアなリードチャンネルを備えるXXXは、きっとあなたのお気に入りのアンプの1つになるでしょう。

6534+:
Peavey6505+ヘッドのパワーセクションを6L6からEL34管に変更し、少しブリティッシュテイストを
加えたアンプ。中音域に特徴のある6534+は、6505+と共に、世界中の名ギタリストを魅了しています。

6505® +:
Peavey社の設立40周年を記念して名付けられた6505シリーズ(旧:5150シリーズ)は、Peavey社がEdward Van Halenと開発したPeaveyの代名詞とも言えるアンプです。5150としても知られ、ロック、ハードロック、ラウドミュージック、メタルの中で多用されてきました。そして6505は、確固たるギターアンプのとしての地位を確立し、今この瞬間も世界中のギタリストがこの唯一無二サウンドを奏でています。

BUDDA®:
Buddaは、ウォームなチューブサウンドと、ピッキングニュアンスを忠実に再現するレスポンスの良いアンプを生み出すブティックアンプブランドとして、広く知られてきました。Budda は、10年以上前にハンドワイヤードのBudda Twinmasterで、低出力ギターアンプ界に革命を起こし、その技術は現在も SuperdriveIIシリーズに引き継がれています。独自のBudda Dual Class Hot Bias Circuitでは、クラスA、クラスABの特性を組み合わせ、倍音に特徴のある生き生きしたトーンを生み出し、まさにブティックアンプブランドの名にふさわしいサウンドを生み出します。

TWN:
カリフォルニアを拠点とするブランドのビンテージアンプに多く見られる、透明感のあるクリーントーンを得意とするアンプ。オレンジと赤のチャンネルでは、アンプの前にオーバードライブのコンパクトエフェクターを繋げた時のサウンドをシミュレートしています。

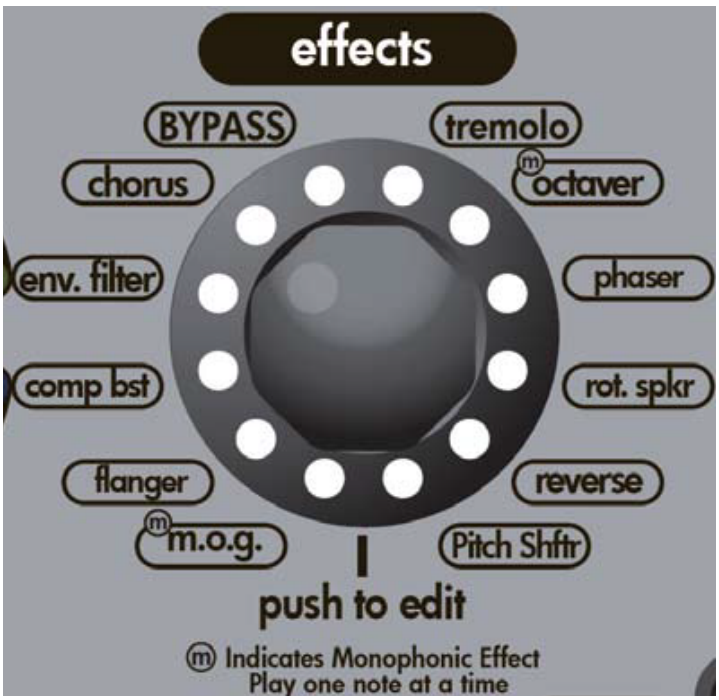
TRACE ACOUSTIC:
老舗ベースアンプブランドとしての確固たる地位を築き上げているTRACE ELLIOTは、20年以上前、独自のハイインピーダンス(ピエゾピックアップ)インプット、ノッチフィルター、ファンタム電源、DSPエフェクト、オリジナルのアンプ回路【Dynamic Correction】などを搭載し、(荒い倍音を生む)高周波ホーンに頼らず、高品質なアコースティックギター用アンプ【TAシリーズ】の開発に成功しアコースティック楽器業界に革命を起こしました。

PEAVEY ECOUSTIC®:
Peavey Ecoustic Seriesアンプは、ストリートパフォーマンスやスタジオリハーサル、ライブコンサートといった幅広い用途を想定して設計されているため、サウンドに偏った癖がなく、ブランドやジャンルを問わず、楽器本来の音を素直にアウトプットすることを得意とするアンプです。

TRACE BASS:
Trace Elliotはまた、1980年代以降、ダイナミックなサウンドを得意とするフルレンジアンプを開発し、ベースアンプブランドとしての確固たる地位を築き上げました。このTRACE BASSは、まさにTrace Elliotのシグネチャトーンを忠実に再現しています。このサウンドを耳にすれば、多くのアーティストがこれまで何年もTrace Elliot に頼ってきた理由が、きっとわかるでしょう。

PEAVEY BASS:
Peaveyのベースアンプはこれまで40年以上、音楽業界の中核を担ってきました。Peaveyのベースアンプサウンドを形容する言葉はたくさんありますが、数多くの名ベーシストがPeaveyのアンプを使ってきた理由がこのサウンドに込められています。

エフェクトエンコーダ



右から3つ目のエンコーダーはエフェクトエンコーダーです。このエンコーダーでは、アンプのエフェクトループに接続するエフェクトを選択します。これらのエフェクトは通常、ポストEQであり、アンプの前に置くコンパクトエフェクター (ストンプボックス) とは異なります。
エンコーダーを回してエフェクトを選択し、選択されているエフェクトのLEDが点灯します。

TREMOLO:
このエフェクトは、音の波形の振幅が変化することによって得られるエフェクトです。
速いテンポでTremoloを使用すると、音がわずかに大きくなり、ソフトな響きになります。なお、このエフェクトはRotaryとは異なります。Tremoloではピッチの揺れはありません。このエフェクトは、VIP1ではインスト/ストンプエンコーダーにあります。
パラメーター1(P1) : スピード / パラメーター2(P2) : デプス

OCTAVER:
演奏する音よりも1オクターブ下の音を生み出します。
このエフェクトは、VIP1ではインスト/ストンプエンコーダーにあります。
パラメーター1(P1) : (エフェクト音と原音の)ミックスレベル / パラメーター2(P2) : オクターブレベル

PHASER:
このフェーザーは、ストンプボックスエンコーダーのAnalog Phaserとは異なり、ストンプボックスよりもフェージング色のかなり強いサウンドになります。
パラメーター1(P1) : スピード / パラメーター2(P2) : デプス

ROTARY:
ロータリースピーカーのサウンドをシミュレートします。このエフェクトを使用すると、シミュレートされたスピーカーの回転によって生まれる、ドップラー効果のかかったピッチシフトが得られます。
このエフェクトは、VIP1では、インスト/ストンプエンコーダにあります。
注:別売りのSanperal又はSanperalIIでは、このエフェクトのスピードを変えることが出来ます。
パラメーター1(P1) : スピード / パラメーター2(P2) : デプス

REVERSE:
演奏したサウンドが逆再生されます。このエフェクトは、VIP1ではインスト/ストンプエンコーダーにあります。
パラメーター1(P1) : タイム / パラメーター2(P2) : ミックス

PITCH SHIFT:
演奏したサウンドのピッチを変えます。別売りのS別売りのSanperal又はSanperalIIを使い、このエフェクトをフットコントローラに割り当て、元音から、パラメーター調整した音にスイープさせることができます。
このエフェクトは、VIP1ではインスト/ストンプエンコーダーにあります。
パラメーター1(P1) : インターバル / パラメーター2(P2) : ミックス
注:別売りのSanperal又はSanperalIIでは、このエフェクトのパラメーターを変えることが出来ます。

エフェクト	VIP 1	VIP 2	VIP 3
トレモロ		X	X
オクターバ		X	X
フェーザー		X	X
ロータリースピーカー		X	X
リバース		X	X
ピッチシフト		X	X
mog		X	X
フランジャー		X	X
コンプ bst		X	X
Env フィルター		X	X
コーラス		X	X

MOG:
PeaveyオリジナルエフェクトMOG。MOGは、Monophonic Octave Generatorの略です。
基本的には、演奏する信号より1オクターブ上の信号と、1つ下の信号を生み出します。
このエフェクトはコード弾きに使用することは想定していないため、単音での演奏に使用してください。
このエフェクトは VIP1のインスト/ストンプエンコーダーにあります。
パラメーター1(P1) : オクターブアップレベル / パラメーター2(P2) : オクターブダウンレベル

FLANGER:
StompboxエンコーダーにあるAnalog Flangerとは異なり、このフランジャーはディレイラインが長くなっているため、
実質的にフランジャーの低周波が強調される結果となります。
パラメーター1(P1) : スピード / パラメーター2(P2) : デプス

COMPBST :
Compと同じ効果を生み出します。ただし、CompBSTは、トーンコントロールの前にダイナミックレンジを圧縮します。
パラメーター1(P1) : 感度 / パラメーター2(P2) : レベル

ENV FILTER:
Envelope Filterの略。オートワウに似た効果を生み出します。基本的な違いはパラメータ調整にあり、
Envフィルターでは、フィルタリングされた周波数帯域幅である"Q" の位置を調整することができ、
オートワウからかなりかけ離れたサウンドを作ることもできます。
このエフェクトは、VIP1のインスト/ストンプエンコーダーにあります。
パラメーター1(P1) : 感度 / パラメーター2(P2) : 強度(Q)

CHORUS:
StompboxエンコーダーにあるAnalog Chorusに似た効果ですが、ディレイラインがより長くなるため、
よりコーラスの掛かり具合が強い "ウェット"な サウンドを作ることができます。
パラメーター1(P1) : スピード / パラメーター2(P2) : デプス

LOOPER:
エンコーダー周りには表示されていません。
※この機能を使用するには、Sanpera®I、またはSanperaIIのフットコントローラー(別売)が必要です。
Sanpera®I、又はSanperaIIを使用すると、30秒以上の録音ができ、音を重ねて録音することができます。
また、録音またはループを再生しているとき、looperに対応するエンコーダーのLEDが点灯します。

STOMP	P1	P2	注
TSC	ドライブ	レベル	12:00 の位置でトーンノブ、最大でペダルより12dB ゲイン増
Fuzz	ドライブ	レベル	ロシアモデル、11:00 でトーン、10dB ゲイン増可
Comp	感度	レベル	
Slap	時間	ミックス	最大ミックス = 50/50 ドライ/ウェット、50ms<T<167ms
Auto Wah	スピード	デプス	最小デプスで、パラメータ1固定
Analog Phase	スピード	デプス	デプスが再生成を加え、強度を上げます
Analog Flange	スピード	デプス	デプスは元のペダルの Width と Regen の組み合わせ
Synth	アタック	グライド	
Slice	スピード	幅	
Choru	スピード	デプス	フィルター設定は 12:00、フラット
UVB	スピード	デプス	
Ring Modulator	周波数	ミックス	変調周波数 80 hz - 2Khz
Vibrato	スピード	デプス	
Boost	ドライブ	レベル	

EFFECT	P1	P2	注
Tremolo	スピード	デプス	
Octave	ミックス	レベル	
Phaser	スピード	デプス	8 ステージフェーザー
Rotary	スピーカー	スピード	デプス
Reverse	時間	ミックス	最大ミックス = 0/100 ドライ/ウェット、250ms<T<1s
Pitch Shifter	インターバル	ミックス	最小ミックスで、パラメータ1 はデチューンを調整
MOG	オクターブアップ	オクターブダウン	レベルコントロール
Flanger	スピード	デプス	ディレイライン=7ms
Comp bst	感度	レベル	
Env Filter	感度	強度 (Q)	
Chorus	スピード	デプス	ディレイライン=15ms

楽器	VIP 1	VIP 2	VIP 3
Acoustic 1	X	X	X
Acoustic 2		X	X
12 string		X	X
7 string		X	X
Resonator		X	X
Sitar		X	X
EVIO		X	X
Synth		X	X
Bari		X	X
Bass	X	X	X

ストンプボックス	VIP 1	VIP 2	VIP 3
TSC	X	X	X
Fuzz		X	X
Comp	X	X	X
Slap	X		
Wah	X	X	X
Phaser	X	X	X
Flanger	X	X	X
Synth	X	X	X
Slice	X	X	X
Env Filter	X		
Pitch shifter	X		
Chorus	X	X	X
Octaver	X		
Rotary	X		
MOG	X		
Tremolo	X		
Reverse	X		
Uvb	X	X	X
Ring Mod	X	X	X
Vibrato	X		
Boost	X	X	X

エフェクト	VIP 1	VIP 2	VIP 3
Tremolo		X	X
Octaver		X	X
Phaser		X	X
Rot. Spkr		X	X
Reverse		X	X
Pitch Shft		X	X
mog		X	X
Flanger		X	X
Comp bst		X	X
Env. Filter		X	X
Chorus		X	X

0 8 PIN MIDI ジャック

Sanpera® I/Sanpera II (別売)はここに接続します。

1 電源スイッチ

使用する時にオンの位置にします。
なお、電源を入れる前に、電源ケーブルがインレット(2)に正しく接続されているか、
また、楽器とアンプ本体が楽器用ケーブルで正しく接続されているかをご確認の上、電源を入れてください。

注意:スイッチがオフの位置でも、内部には電流が溜まっている場合がありますので、
絶対にカバーを外して中の回路に触れることはしないでください。

2 電源インレット

本体にAC電源を供給するIECラインコードをここに接続します。
接続する前に、電源スイッチ(1)がオフの位置になっているか、毎回必ず使用前にご確認ください。
電源電圧が適合していない場合、故障に繋がる恐ればありますので、使用前に必ず本体の電圧表示をご確認ください。

どのような場合でも、グランドピンは決して取り外さないでください。グランドピンは安全のために取り付けてあります。
使用するコンセントにグランドピンがない場合は、アースを別口で取るなどの対応を必ず行なってください。
アースの取り方によるトラブル及び事故が万が一起きた場合、責任を追うことは出来ません。
また、修理は正規保証サービスの対象外となります。

感電や火災の危険をなくすため、アンプおよび関連するすべての機器が正しく接地されているか
使用前に必ず確認してください。

NOTE: FOR U.K. ONLY

As the colors of the wires in the mains lead of this apparatus may not correspond with the colored markir identifying the terminals in your plug, proceed as follows:

(1) The wire which is colored green and yellow must be connected to the terminal which is marked by th letter E, or by the Earth symbol, or colored green or green and yellow. (2) The wire which is colored blue must be connected to the terminal

which is marked with the letter N, or the color black. (3) The wire which is colored brown must be connec to the terminal which is marked with the letter L, or the color red.

VIP 1 – **電源仕様**
定格出力 & 負荷:
(5% THD, 1kHz, 120V AC ライン)
20W RMS - 8 オーム
消費電力 (1/8 電源出力):
20W @ 50/60Hz, 100-120V AC
20W @ 50/60Hz, 220-240V AC
寸法 & 重量
15" H x 16.584" W x 8.5" D
17.5 lbs.

VIP 2 – **電源仕様**
定格出力 & 負荷:
(5% THD, 1kHz, 120V AC ライン)
40W RMS - 8 オーム
消費電力 (1/8 電源出力):
40W @ 50/60Hz, 100-120V AC
40W @ 50/60Hz, 220-240V AC
寸法 & 重量
17.7" H x 19.59" W x 10" D
26 lbs.

VIP 3 – **電源仕様**
定格出力 & 負荷:
(5% THD, 1kHz, 120V AC ライン)
100W RMS - 8 オーム
消費電力 (1/8 電源出力):
42W @ 50/60Hz, 100-120V AC
42W @ 50/60Hz, 220-240V AC
寸法 & 重量
19" H x 19.566" W x 10" D
31 lbs.

Ippinkan Corporation
Musical Instruments Division
株式会社 逸品館 MI事業部
〒223-0052 神奈川県横浜市港北区綱島東6-8-20
Tel : 045-633-7530 Fax : 045-633-7531
E-mail : ippinkan.mi@otoiawase.jp
Web : ippinkan-music.jp